2-3．ねたてのまちベースミーティング、市民などへの取組み

取組み方針①：ＮＢミーティングの今年度テーマの検討と取りまとめ及び情報収集、意見集約の機会を支援する。

取組み方針②：ＮＢミーティング定例会への参加者の増加及び組織強化を図るため、対外的な活動を通してまちづくりに関する活動の輪を広げる。

取組み方針③：市民に対し、跡地利用への興味関心を高めるため情報発信を行う。

（1）NB ミーティングの定例会活動支援

1）取組み概要

市民の関心ごとの一つとして、現在居住している地域が今後どのように変化するのかという事が挙げられる。そのため昨年度に引き続き、今年度の検討テーマを「周辺市街地から考える普天間飛行場跡地利用計画」と設定し、年度前半は普天間飛行場に隣接する地域の将来的な変化の可能性について学習した。また、年度後半についてはコロナ禍における会の運営のあり方を中心に議論を行った。

2）取組みスケジュール

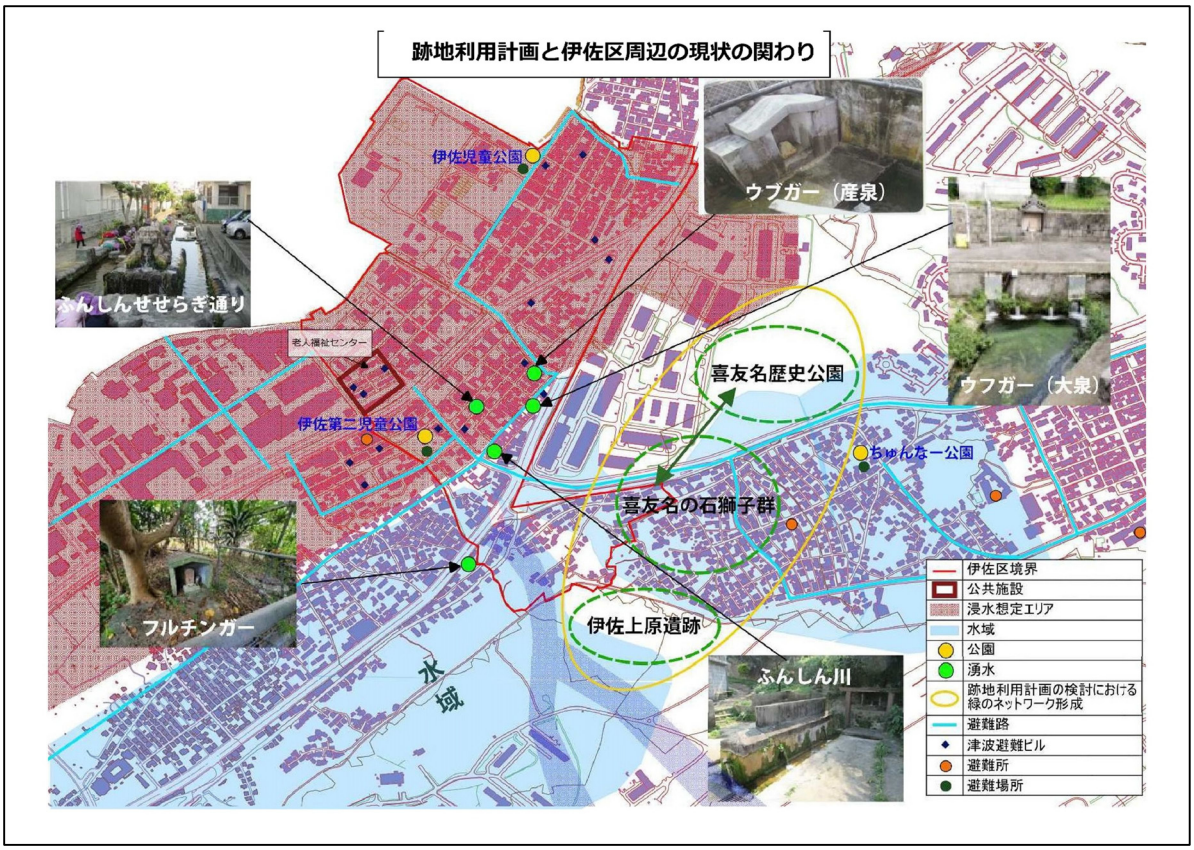
No	開催日	議題及び取組内容
1	6 月 15 日	・今年度の取組み（事務局案の説明） ・ NBM 活動方針について ・琉球大学との連携について ・先進地視察会のテーマについて
2	7 月 20 日	・跡地利用計画の検討状況及び内容について ・NBM 活動方針について ・「まちあるき」について ・先進地視察会のテーマについて
3	8 月 17 日	・跡地利用計画の検討状況及び内容について ・「まちあるき」について ・ NBM 活動方針について
4	9 月 21 日	・みどりの中のまちづくりに必要な機能 ・跡地利用計画の検討状況及び内容について ・視察受入先に対する質問事項について ・「まちあるき」について ・ NBM 活動方針について
5	10 月 19 日	・みどりの中のまちづくりに必要な機能 ・跡地利用計画の検討状況及び内容について ・「まちあるき」について ・ NBM 活動方針について

No	開催日	議題及び取組内容
6	12 月 21 日	・活動の継続について ・「伊佐区のまちあるき」の開催可否について ・今後取り上げてほしいテーマについて
7	1 月 18 日	・今後議題として取り上げてほしいテーマについて
8	2 月 15 日	・今後議題として取り上げてほしいテーマについて
9	3 月 15 日	・次年度の取組みについて ・正副会長の選出

写真：定例会の様子①

写真：定例会の様子②

図１：普天間飛行場に隣接する地域の将来的な変化の可能性



３）取組み成果と今後の課題

【取組み成果】

●跡地利用計画の内容と周辺地域への影響について

・これまではまち歩きなどのフィールドワーク中心であったが、コロナ禍の影響もありオンライン会議が中心となったことから、改めて跡地利用計画の現在の進捗状況を伝え、それを踏まえて今後まち歩きを予定している地域の将来的な変化の可能性について議論した。（図１参照）

●若い世代との連携の可能性について

・昨年度から大学生が定例会に参加し、大学のゼミと連携した取組み事項について継続した検討を行った。コロナ禍で話が保留となり実現には至らなかったものの、学生や若い世代の考え方について定例会の場で伺う機会を設けることができた。

【今後の課題】

●定例会の開催方法について

・今年度はコロナ禍の影響もあり毎月オンラインでの開催を行ったが、コロナが収束し対面会議ができる状況となるまで、定期的な開催という会の持ち方を検討した方がよいのではないかという会員からの意見が上がったことから、定例会のあり方について検討する必要がある。

●市民への情報提供

・「全体計画の中間取りまとめ（第２回）」の策定が次年度予定されていることから、市民等に対して普天間飛行場跡地利用計画の状況など情報提供を行う必要がある。

●地域との継続した連携

・今年度はコロナ禍のため実施できなかったが、今後も「まち歩き」を継続的に実施し、地域の課題や要望等の意見集約を図り、跡地利用計画に反映すべき点を取りまとめていく必要がある。

●市内組織への情報提供

・市内の各種組織等に対して、「全体計画の中間取りまとめ（第２回）」策定後、普天間飛行場跡地利用計画の状況など情報提供を行う必要がある。

（2）情報誌「まち未来だより」の作成・発行

1）取組み概要

市内全世帯に対して跡地利用に関する情報や行政・NB ミーティングの取組みについて情報の提供を目的として、「まち未来だより」を作成し、発行した。

2）情報発信の内容

回　数	発送時期	主な掲載内容
第 13 号	令和４年３月	○報告事項 ・まちづくり座談会の開催報告 ・先進地視察会の開催報告

3）取組み成果と今後の課題

【取組み成果】

●市民目線のまちづくりの考え方に関する情報発信について

・市民に対し、まちづくりについて考える際の視点について、本業務の取組みから得られた事例を通して発信することができた。

【今後の課題】

●市民が跡地利用のまちづくりに興味関心を持つための工夫

・今年度も対話、対面形式による取組みを極力減らす形で業務を進める事となった。次年度も同様に、対話、対面形式での各種取組みに対する影響が想定されるため、市民への情報支援ツールとして「まち未来だより」の重要性は非常に高い。そのため、紙面の見やすさ、分かりやすさについては更なる工夫を凝らし、より多くの市民に見ていただけるよう努める必要がある。

みんなで考えよう！宜野湾市の夢のあるまちづくり　vol.13

まち未来だより

4月　2022 April. 発行
宜野湾市基地政策部まち未来課

「まち未来だより」では、普天間飛行場の跡地利用に関する取組みについてお伝えします。

まちづくり座談会を開催しました！

普天間飛行場返還後のまちづくりにおいては、地権者だけでなく、市民の皆さまの参加がとても重要となります。そのため、本市では跡地のまちづくりについて学べる講座を開催しております。今年度は「エリア価値を高めるまちづくり」をテーマに3回実施し、各回のテーマに詳しい講師を招へいし取組み紹介やディスカッション等を行いました。

第1回
テーマ：エリア価値を高め、持続性の高いまちのつくり方

講師　一般社団法人大阪梅田エリアマネジメント代表理事
大阪大学コミュニケーションデザインセンター招へい教授
流通科学大学経済学部　教授
植松　宏之氏

北谷町デポアイランド通り会　会長
奥原　悟氏

うめきた地区のまちづくり

●質の高い環境を整える都市機能として、「みどり」の中で中核機能と連携あるいは補完しながら、複合的な機能の集積を図り、世界水準のビジネス環境や質の高い居住環境など創出する概念を持っており、「みどり」と「イノベーション」の融合拠点を目指している。都市公園は、指定管理者制度（50年間）で維持管理を行う仕組みになっており、新しい産業を生み出しながら梅田地区を発展させる形である。

デポアイランドのまちづくり

●海岸沿いには堤防とテトラポットがあり、そのまま建物を建てても海が見えない。そこで建物を全部取り壊し、既存のアメリカンビレッジから海に向かって2.8m高くなるよう海が見下ろせるよう盛土を行った。デポアイランドの中央に、曲がりくねった起伏のある道をつくることで、「人」中心という期待感のある道路となっている。

		黎明期	初動期	成長期	未来
大阪梅田地区	目的	組織設立の目的：「西日本最大のターミナル機能を活かす」			
	課題	・梅田全体を各ｊ地区がまちにない	・梅田地区の回遊性が欠如	行政の規制が厳しく人が集まれる空間になっていない	・地域ビジョンの共有・活動財源・人材育成・情報発信
	取組	・梅田地区の共通地区を作成して、来街者に配布	・イベントを開催して、賑わいを形成 ①ゆかた祭　②スノーマン	実態調査や電子行政と協力することにより、行政の規制が守られる	・コンセプトブック改訂 ・入換条BID条例 ・日本版BID法
北谷町デポアイランド	目的	ときめきのある地域づくり			
	課題	・コンセプト策定 ・インフラ整備 ・ルールづくり・用途区分	・ネームバリューがない	・地域特性が活かされていない ・公共空間が活かされていない	・コンセプト・ビジョンの共有 ・北谷らしいイベント
	取組	（行政主導） ・面積配中間の整備 ・合同会社策の導入 ・コンセプトに沿った企業誘致	（民間主導） ・個性的なイベント開催 ◆イルミネーション ◆八月のマン ・発信力の強化	・民間主導による エリア開発 ・公共空間の整備と民間企業加の導入 ・海外商店街との連携による情報発信	・BID制度の導入 ・マーケティング思考強化 ・海外商店街等との連携強化

第2回
テーマ：ポートランドに学ぶパブリックスペースにおける緑や公園のつくり方

海外事例紹介

講師　アメリカ・オレゴン州登録建築家　アメリカ建築家協会
柳澤　恭行氏

みどりと人々（地権者・市民）の関わりについて

●地域でイベントを行うということは、地域にあるものを購入することであり、地域にお金が落ちる。金額は少ないかもしれないが、**地域間で循環するお金がグリーンインフラの活用により、もっと循環できれば地域波及効果は高い**のではないか。

今から、出来ること。今だから、出来ること。

●宜野湾市の地権者、住民が持っている課題や期待・希望を後世に繋げていくために今から出来ることは絶対ある。沖縄は昔、神社の境内に集まるコミュニティの象徴があったと聞いている。**地域の再認識はイベントをすることによって、もっと広がる**と思う。それが今からできることではないだろうか。

参加者からの質問

Q. まちづくりへの投資効果は、施設的なものよりみどりの方が高いと考えるか。
→すぐにプラスαとはいかないが、**繋がりのあるみどり（オープンスペース）を作ると費用対効果も高く**なる。施設は陳腐化してしまうが、みどりは少しずつ手を加えていけばかなり良い状態を保つことも可能である。変更も施設と比べて容易であるため、**将来的なフレキシビリティとしては効果が高い**と考える。

第3回　テーマ：柏の葉に学ぶ　公民学連携のまちづくり

講師　アーバンデザインセンター柏の葉　副センター長
三牧　浩也氏

柏の葉キャンパスタウンについて

●柏の葉キャンパスタウンは、**まち全体が大学**のようになっており、様々な研究開発がまちで行われる。**研究開発を市民や企業が応援し参加し、次世代型のまちづくりを一緒に進めている**。大学の図書館や色々な機能を市民に開放することで、市民はいつでも学びにアクセスすることができる。

まちづくりへの関心の向上に向けて

●関心が薄い人に無理強いはしない方が良いが、中には、健康に関するアプリが無料で利用できると知れば、少しお得に感じてサービスを使用してもらえるかもしれない。**入り口をたくさんつくり、様々な関わり方ができるようにしておくことが大事**だと考えています。

参加者からの質問

Q. 緑地ネットワークの保全強化の中で、緑被率40%維持という高い目標を掲げられているが、今後も継続的に目標を実現するために、考えている取組みがあれば教えてほしい。
→海外の緑あふれる都市の緑被率は40%であり、「緑の中のまち」の水準として40%を目指したということ。もう１つは、道路や公園、調整池等のオープンスペースを100%緑化するものとして、民間敷地内を25%緑化することで、地区全体で見た場合40%になるという試算からである。

【「まち未来だより」発行元】
宜野湾市役所　基地政策部　まち未来課
〒901-2710　沖縄県宜野湾市野嵩一丁目１番１号
電話　098-893-4401（直通）　FAX　098-892-7022

普天間飛行場跡地利用に係る情報は、宜野湾市ホームページや情報提供窓口（宜野湾市基地政策部まち未来課）でも提供しております。情報収集や跡地利用に係る要望・ご意見を述べる場としてお気軽にご活用ください。

図：「まち未来だより」vol.13（表面）

普天間飛行場跡地のまちづくりに取組む ヒントを福岡県の視察を通して探しました。

WeLove天神協議会

2006年４月に設立された福岡市天神のまちづくり団体（エリアマネジメント団体）である。
九州最大の繁華街である福岡・天神エリアが将来にわたり賑わい、さらに明るく元気で魅力的な街になることを目的として設立された。
設立当時の会員は76社・団体であったが、現在は130社・団体まで広がっている。

【街の目標像】

- 上質に洗練され、いつも賑わいがある**「歩いて楽しいまち」**
- 環境にやさしく安全安心、だから誰もが**「心地よく快適に過ごせるまち」**
- 変化に対応し、アジアの中で**「持続的に発展するまち」**

【主な取組み】

- 天神クリーンデー（清掃活動）を毎月１回実施し、防犯パトロールへ参画を行っている。
- 公共空間を活用した新しいまちの過ごし方（天神憩いの時間と空間プロジェクト）を実施した。
- 路上にあったサイクルポストを撤去することで、歩道は広くなり歩きやすい道となっている。

【公共空間の活用】

福岡市役所西側「ふれあい広場」では、季節ごとのイベントを開催。
来街促進・にぎわいを創出することで、天神への親しみや地域との繋がりが生まれている。
（写真：天神クリスマスマーケット）

【歩いて楽しいまちの実現】

サイクルポストを撤去することで、歩道も広くなり歩行者中心の空間創出になっている。

質疑応答

天神地区のまちはきれいという印象を受けた。周辺住民が、「自分たちのまちは自分たちできれいにしていく」という意識を持つことが大切ということか。
→シビックプライドを醸成したいという取組みでもある。天神は「消費されるまち」ではなく、**「愛着のある自分の地元」**と思われるまちにしたいと考えており、そのために様々な対策を行いたいと考える。

ＮＰＯ法人　循環生活研究所

「コミュニティの努力を通じて、病気を予防し、身体的・精神的な健康を促進する『たのしい循環生活』を実現する」ことを目的に活動を行っている。「主婦が感じる生活圏」、「人々の顔が見える距離」を、コミュニティ形成を図る上でちょうど良い範囲である、「半径2km圏」をひとつの基準として栄養循環のしくみを構築する。

【目　　標】 必要なものが地域で循環するたのしくて安全な暮らし

【主な取組み】

- 市民が使用できる貸農園が３５区画位あり、毎年抽選で貸出しを行っている。教育農場も兼ねており、大学、幼稚園と保育園、保育所が利用している。
- 香椎照葉北公園に木枠の**コンポスト**を置き、落ち葉を回収し**堆肥化**する活動を始めている。
- 九州産業大学との取組みとして第六次産業を勉強するプロジェクトがあり、和白干潟でとれたアオサを堆肥として陸に戻し有機農業に活用する授業がある。

質疑応答

活動の一つである「堆肥をつくるコンポスト」の取組みは、今からできることの１つでありとても良いと感じた。
→今から「地域の中で資源が循環する」ということを住民と一緒に学び実践する事ができると、新しいまちができた時にローカルフードサイクリングの取組みが受け入れられると考える。現在、企業が所有しているマンション予定地でコミュニティガーデンの活動を行っている。まちづくりの計画を立案する際は、**地域住民が集まることができる場所を考慮し**、市民農園などハード面の整備をあらかじめ想定しておくことが重要である。

城野駅北土地区画整理事業

北九州市のJR城野駅北側に位置する約19haのエリアであり、陸上自衛隊分屯地の移転とUR団地の建て替えによる跡地の発生等を契機として、開発に向けた検討が始められた。
その後、ゼロカーボンのまちづくりを目指すことについて関係者間で合意がなされ、財務省、UR都市機構、市の３者による基本協定の締結や協議会によるゼロ・カーボンまちづくりガイドラインの策定が行われた。

【目　　標】 人がつながり、多代が「暮らし続けられる」「ゼロ・カーボン」、「子育て支援・高齢者対応」のまちづくり

【特　　徴】

- 国有地が地区面積の約75%を占めており、従前の土地所有状況としては殆どが公共団体及び都市再生機構所有地であった。
- 地区の南北に遊歩道（Ｗ＝8～12m）を整備し、地区を通過する自動車交通を抑制するとともに、歩行者及び自転車のＪＲ城野駅や路線バスへのアクセス向上を図っている。
- 歩行者や自転車利用を重視した専用の遊歩道は道路線形を緩やかな曲線で設計し、地区を東西に横断できない道路計画とし、通過交通を排除している。

●城野ゼロ・カーボン先進街区形成事業

- ゼロ・カーボン先進街区はエネルギーを全く使用しないというわけではなく、消費する分を地区内で生産する考えで「ゼロ」と考えている。
- 地区の南北を貫く自転車歩行者道（エコモール）は、徒歩による地区内への回遊性や、地区外からの駅までのアクセスを高めることや、歩行者だけではなく自転車も配置できる特徴がある。エコフロントには、植栽等も積極的に整備している。
- 道路や自転車歩行者道は、遮熱性舗装により夏は表面温度が10度違う。また、歩行者道路については積極的に植栽を行い、まちなみの保全に努めている。

一般社団法人　城野ひとまちネット

城野駅北地区の良好なまちの価値を維持・向上させるため、地区内の住民や事業主等がまちづくりに主体的に取組むタウンマネジメント組織で、平成２７年３月に設立した。

【目　　標】 みんなで創るまち、みんなで育むまち

【主な取組み】

●住民コミュニティ部会　2019年4月に発足された持続可能なまちづくりのために、住民主体でまちの魅力向上や、課題解決の提案などを行う会でだれでも参加可能である。

●ＴＥＴＴＥ会　毎月第三土曜日に家族の交流をメインとした活動や、居住者の声を大切にしたイベントを開催。

●北九州市立大学 地域創生学群　ボン・ジョーノ実習 広報活動やグリーンマネジメント等の活動に関わっている。

●くらしラボ　お掃除ラボ　グリーンラボ　ＤＩＹラボ　キッチンラボ　ヘルスラボ　スマートライフラボ　TETTEを拠点とした各活動を「くらしラボ」と呼ぶ。テーマ別に６つのラボで構成している。

●事業者との関わりについて　2019年4月に住民コミュニティ部会発足後、住民が直接ボン・ジョーノ事業者に協力を呼びかけボン・ジョーノ実習生がボン・ジョーノ事業者との企画を促してくれたことがきっかけで様々な企画に参画し始めた。

地区の中心にあるTETTE集会所

利用者は入口にある予定表に記入する。

質疑応答

北九州市立大学の学生との「地域創生学群ボン・ジョーノ実習」があるということであるが、学生がタウンマネジメント組織に参加するメリットとして何があるのか。北九州大学と連携する上で工夫していることがあればご教示いただきたい。
→実習プログラムとして単位取得につながるため、活動に参加する学生も多い。中には卒業後もまちづくり活動に関わる学生もいる。理由としては、まちづくりに熱心な住民コミュニティ部会の部会長がおり、その方の熱意に皆さんが引き寄せられることが非常に大きな要因である。